
協会けんぽにおける

“保健指導力”を高める研修の在り方

全国健康保険協会

保健第二グループ長 六路 恵子



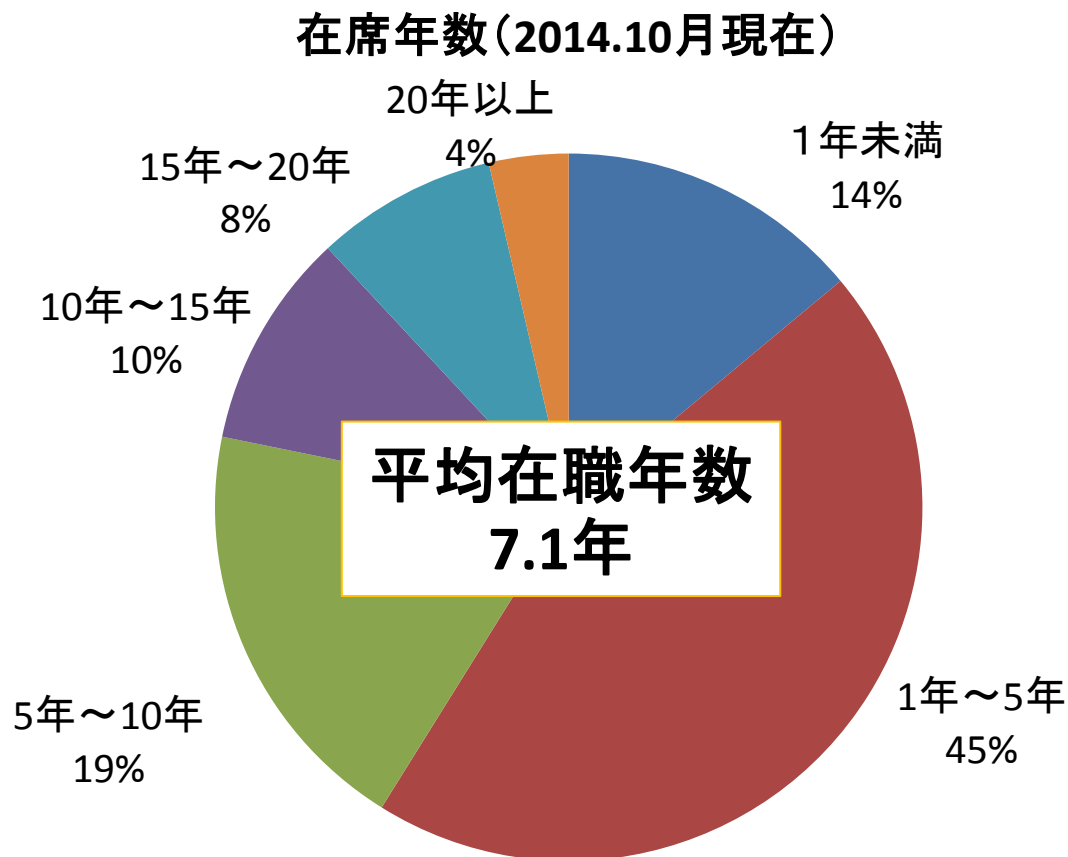
全国健康保険協会

協会けんぽ

協会けんぽの保健指導者の概要

保健師・管理栄養士770人が保健指導に当たっている。

■ 契約保健師等の保健指導経験年数(協会けんぽ及び社会保険健康事業財団在職年数)は、1年未満14%、1年以上5年未満45%、5年以上41%と差が大きい。



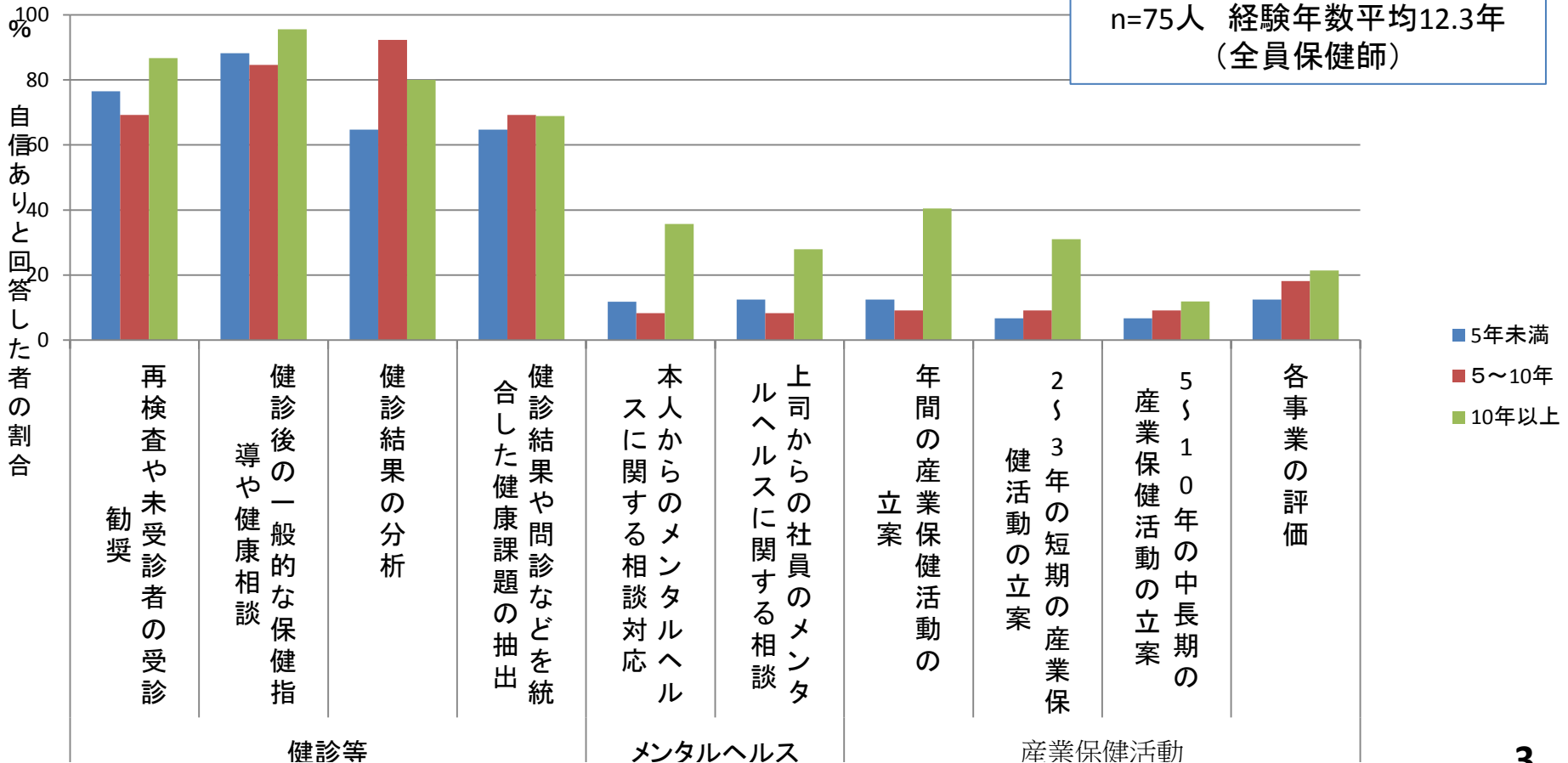
種別	人数
支部保健師 (在職年数1ヶ月～25年)	80人
契約保健師	508人
契約管理栄養士	180人
本部保健師	3人
合計	771人

勤続年数別産業保健活動への自信について

産業保健活動への自信について自記式アンケートにより調査をした。

- 健診・保健指導に関する自信は何れの経験年数でも60%以上が自信を持っている
- メンタルヘルス、産業保健活動の計画・評価に関する自信は極めて低い
- 経験10年以上の者は、10年未満経験の者に比べて自信がある者が多い。

n=75人 経験年数平均12.3年
(全員保健師)

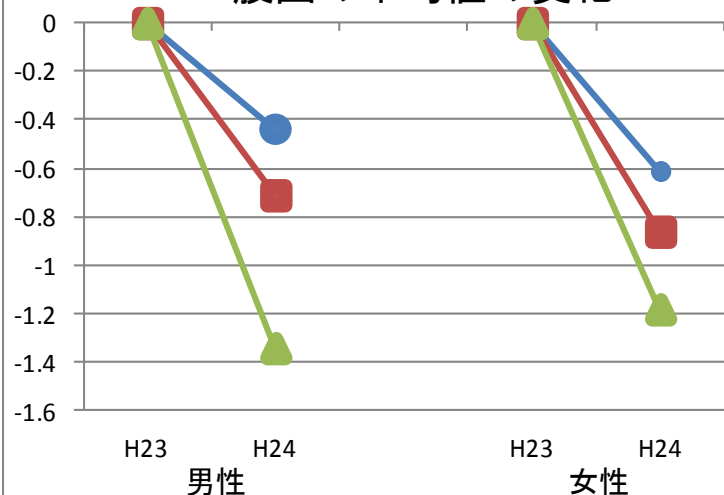


特定健診・保健指導による評価指標の推移【積極的支援】①

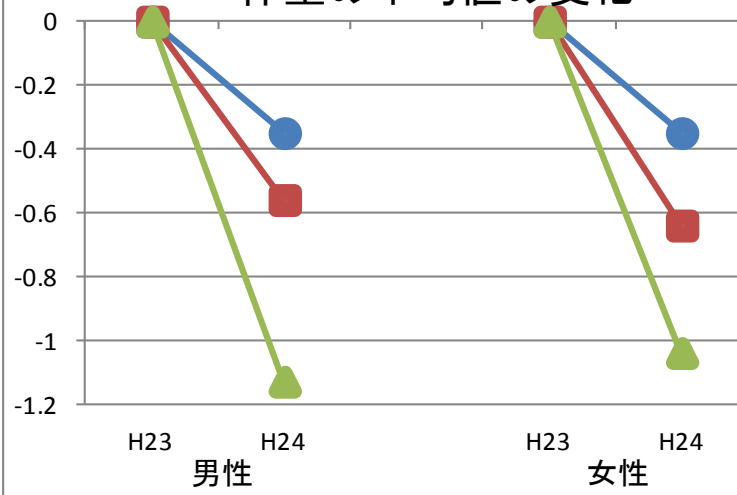
【分析内容】 H23年度に特定健診の結果、特定保健指導の対象と判断された者のうち、特定保健指導終了者、中断者、未利用者について、H24年度の検査データとの差を27項目について比較した。

【分析結果】 27項目のうち男24項目、女21項目において、6ヶ月支援終了者が翌年の検査データ等の改善が最も大きく、次いで中断者、未利用者の順であった。

腹囲の平均値の変化



体重の平均値の変化

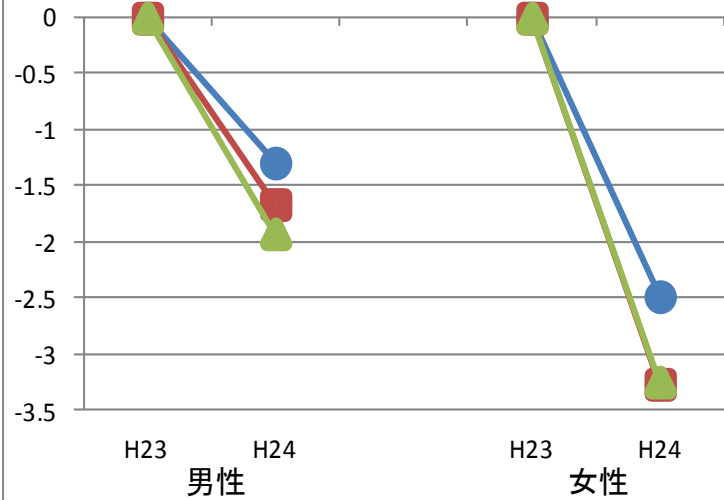


男性 ; 終了者49,683人、中断者57,115人、未利用者390,373人
 女性 ; 終了者33,108人、中断者5,109人、未利用者3,248人

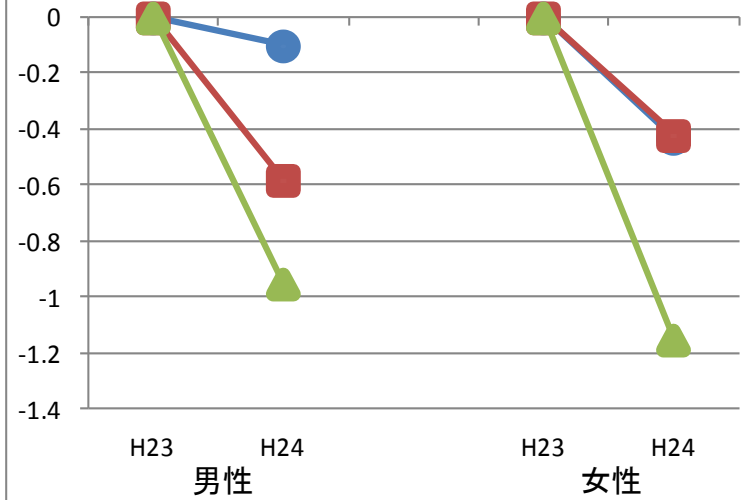
●未利用者 ■中断者 ▲6ヶ月支援終了者

特定健診・保健指導による評価指標の推移【積極的支援】②

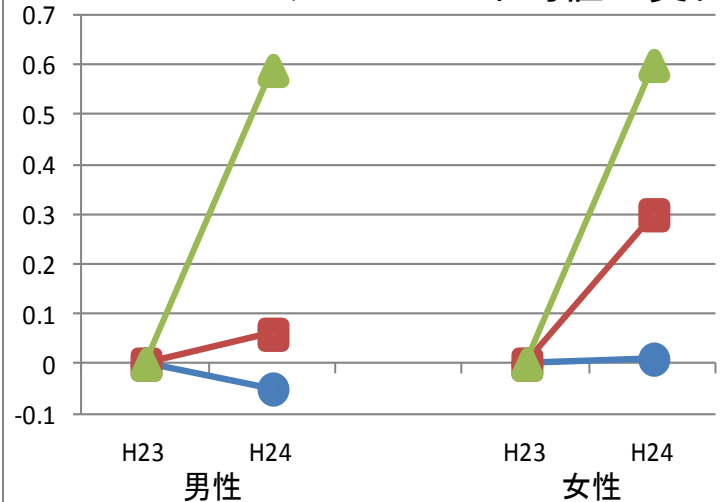
収縮期血圧の平均値の変化



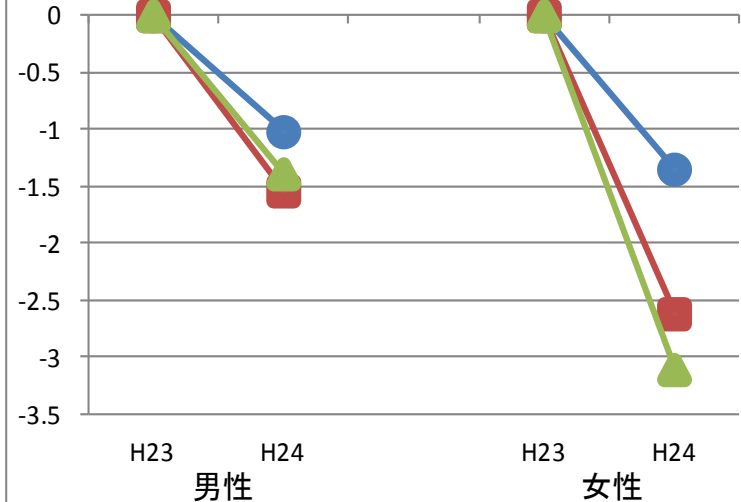
空腹時血糖の平均値の変化



HDLコレステロールの平均値の変化



LDLコレステロールの平均値の変化



特定保健指導の効果の支部間差①

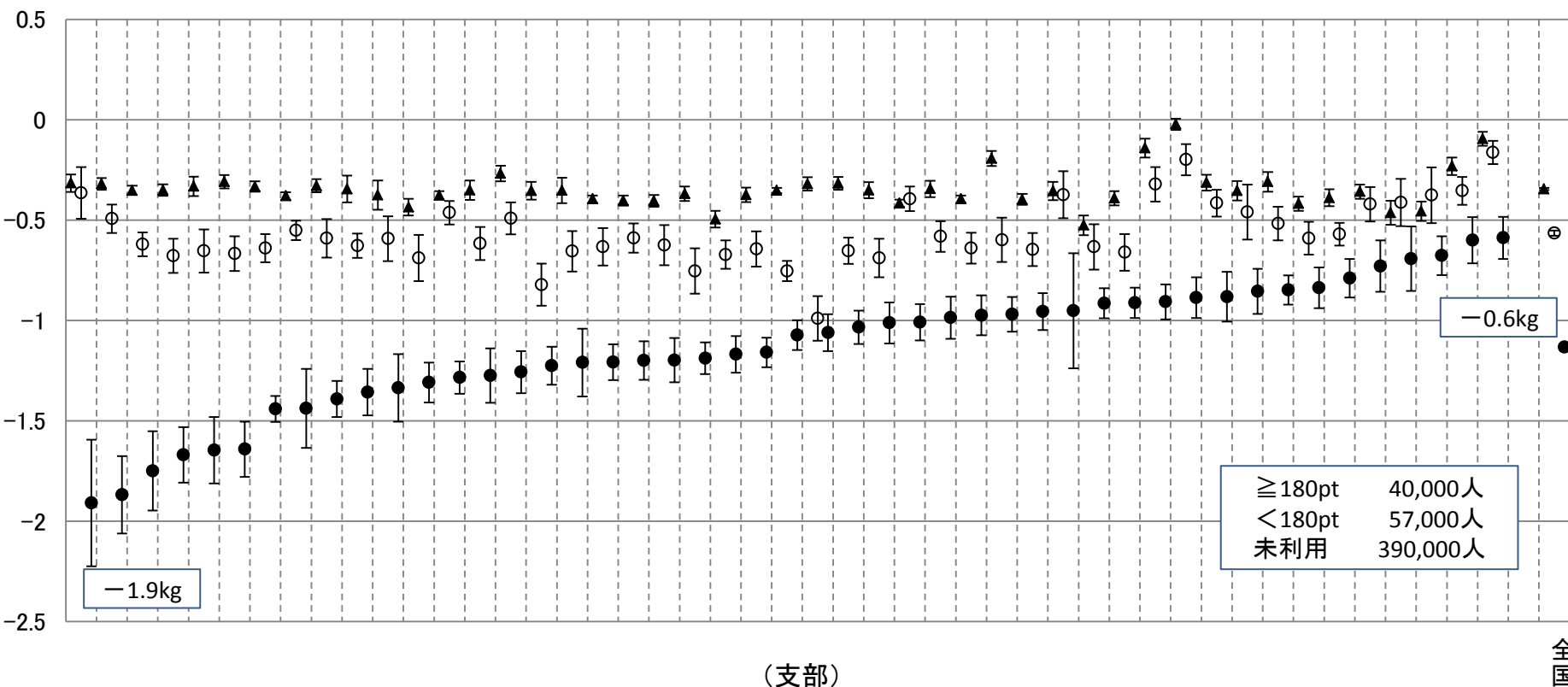
体重の年齢調整平均値の変化(男40~64歳)【積極的支援】

- 特定保健指導の効果は、改善度の高い支部から低い支部まで大きな支部間差がある。
- 体重の平均値の変化は、最大-1.9kgから最小-0.6kgまで大きな差がある。

(平均)

▲ 未利用 ○ <180 pt. ● ≥180 pt.

値は年齢調整平均値±標準誤差

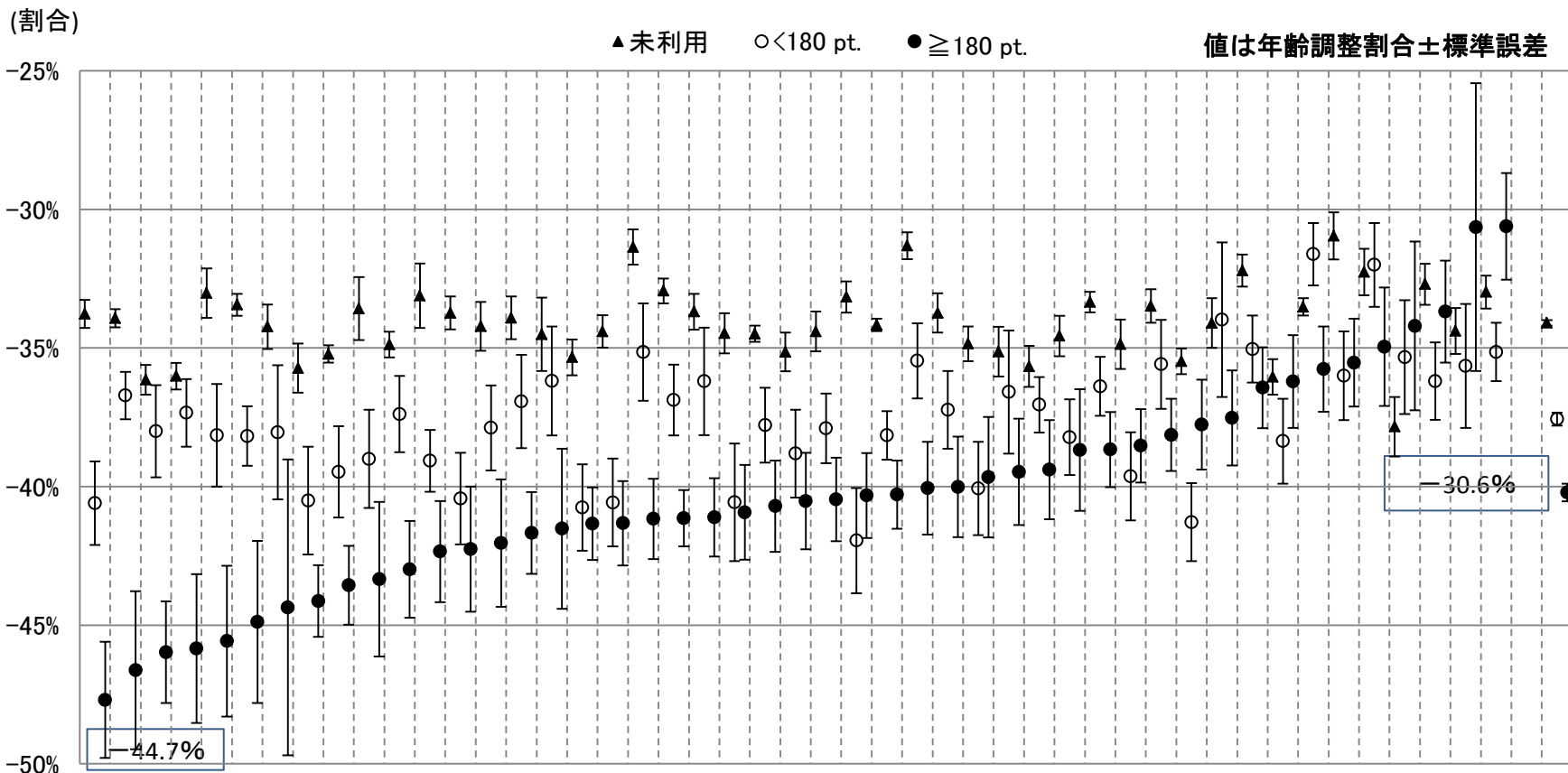


特定保健指導の効果の支部間差②

メタリックシンドローム該当者の年齢調整割合の変化(男性, 40-64歳)

【積極的支援】

メタリックシンドローム該当者の年齢調整割合の変化は、最大-47.7%から最小-30.6%まで大きな差がある。

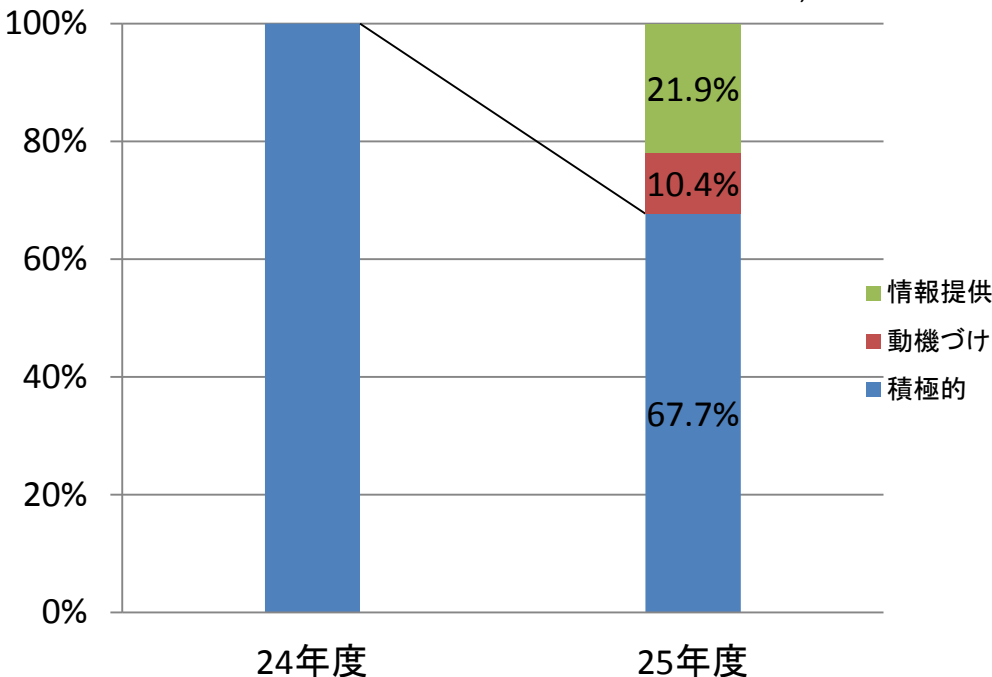


特定保健指導該当者の翌年度の階層化の結果

- ・24年度積極的支援対象者の翌年度の階層化結果は、21.9%が情報提供レベル(特保非該当)、20.4%が動機づけ支援となった。
 - ・同様に24年度動機づけ支援対象者は、30.5%が情報提供レベル(特保非該当)、16.8%が積極的支援となった。
- 毎年特保対象となる者、悪化する者の支援方法の検討が必要である。

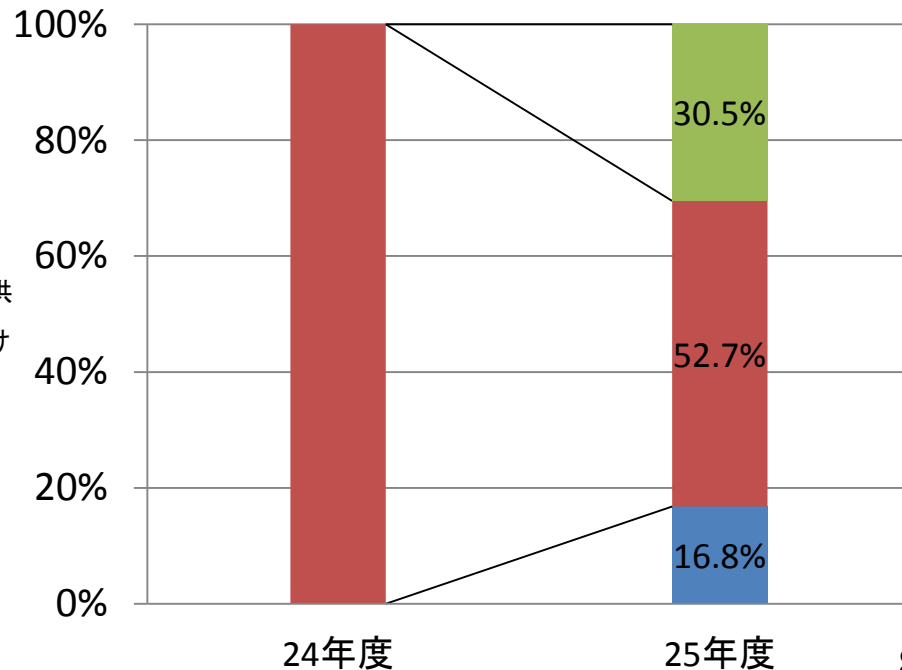
24年度積極的支援の者の 25年度の階層化の変化

n=611,787



24年度動機づけ支援の者の 25年度の階層化の変化

n=351,787

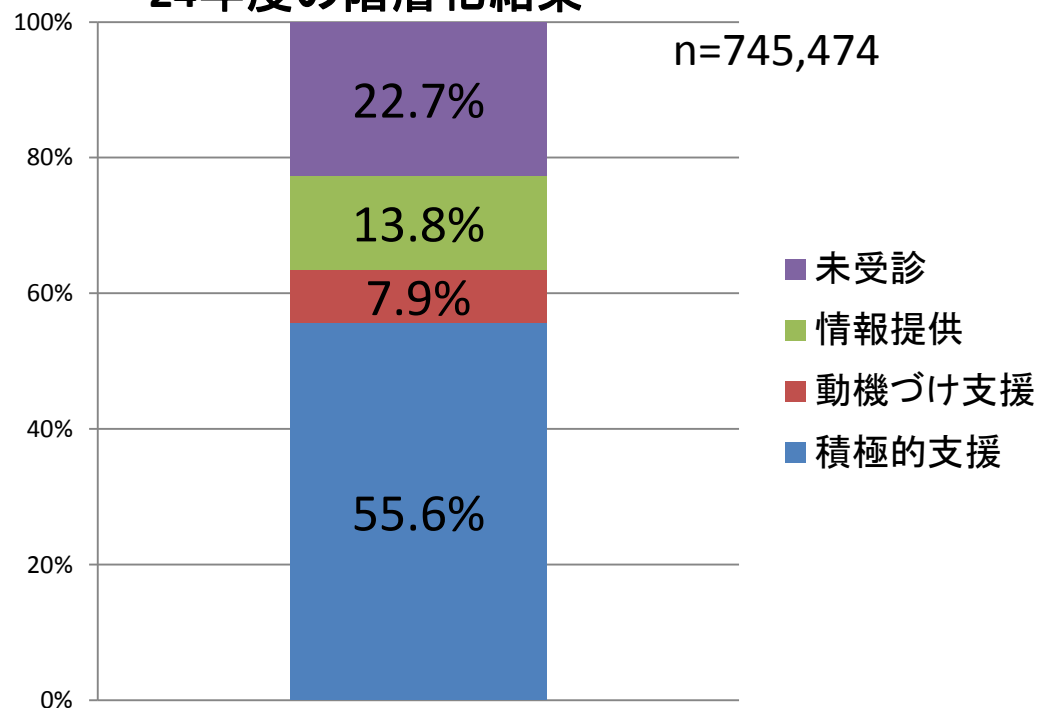


特定保健指導該当者の前年度の階層化結果

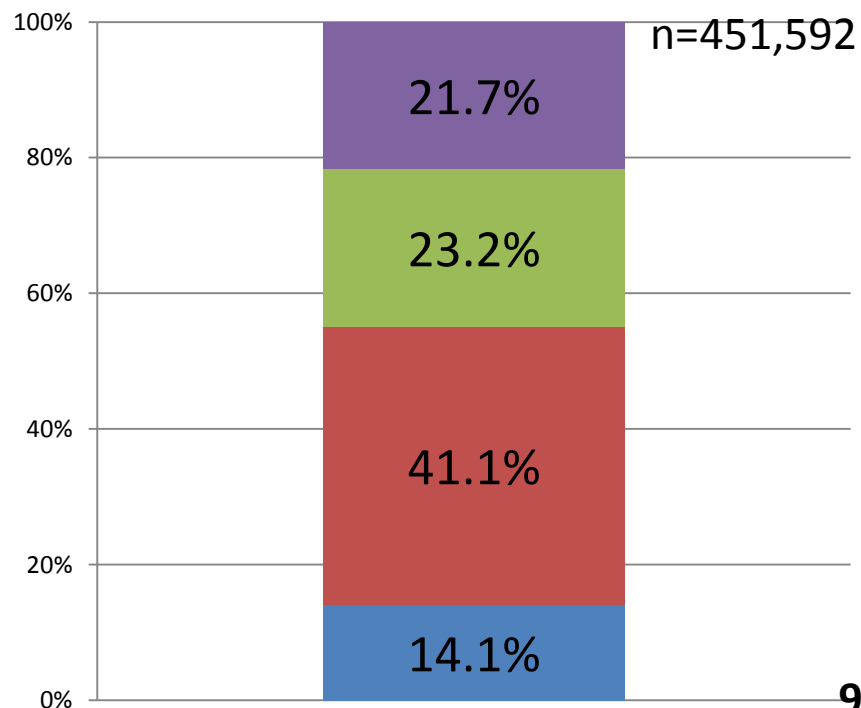
・25年度積極的支援該当者の前年度の階層化結果は、情報提供レベル13.8%、24年度は健診を受けていない者(24年度は40歳未満だった者を含む)22.7%である。

■若年者や特保非対象者が体重増加または検査結果の悪化により特保対象者とならないように、ポピュレーションアプローチが欠かせない。

25年度積極的支援の者の
24年度の階層化結果

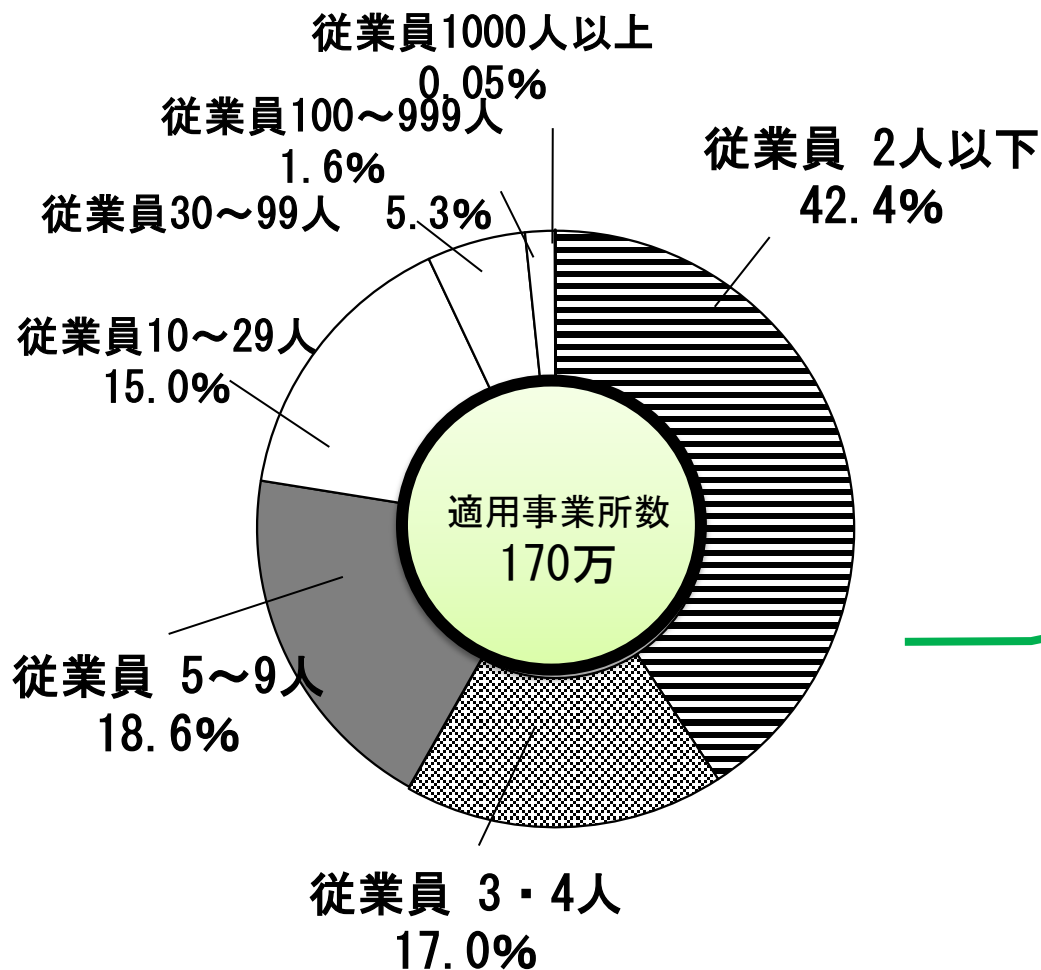


25年度動機づけ支援の者の
24年度の階層化結果



協会の事業所規模別構成(25年12月末)

- ・50人未満の小規模事業所が95%を占めている。
- 労働者の健康管理に取り組んでいる事業所が少ない。



●事業所の78%が
従業員数10人未満

●事業所の95%が
従業員数50人未満

保健指導力向上のための課題

■ 保健指導効果を高めるために必要な対策は？

－ 支部間格差を解消と全体のレベルアップを図るために－

- ・ 研修方法、研修体制？
- ・ 支部の保健指導環境（職員の保健指導に対する考え方、体制など）に違いがあるのか？
- ・ 保健指導者のモチベーション？
- ・ 保健指導経験年数？

■ 未利用者、困難事例にどのように対応するか

■ 若年者、非肥満者にどのように対応するか



- 支部の保健師等にインタビューを行っている。支部間格差の要因分析を行い、その結果に基づいた対策を取っていく。
- 平成23年度から「PDCAを回す保健指導の質の改善」に全支部で取り組み、各支部の課題解決に取り組んでいる。
- データヘルス計画で、事業主の健康意識の醸成やポピュレーションアプローチを柱として、取り組みを進めていく。